

高校生を対象とした精神保健教育における養護教諭の関わり方に関する検討 ～科目保健「精神疾患の予防と回復」の授業実践を通して～

令和3年度入学
熊本大学大学院 教育学研究科
教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース
山口 起輝

実践報告書要旨

【背景・目的】

新学習指導要領(平成30年度3月告示)において、科目保健に「精神疾患の予防と回復」の内容が位置付けられた。本研究では、令和4年度から実施されている本単元の授業実践を通し、精神保健教育に養護教諭が関わることによる効果や今後の課題について検討を行った。

【研究方法】

- 1)対象：A高等学校1年2クラス（Aクラス：25名、Bクラス：30名）
- 2)授業の実施：令和4年10月18日～11月9日 4時間取り扱い（「精神疾患の特徴Ⅰ」「精神疾患の特徴Ⅱ」「精神疾患の予防」「精神疾患からの回復」）
※授業の実施に当たって、養護教諭の専門的知識や特性を活かす内容を取り入れた。また、授業後に毎回、授業の振り返りと感想を求めた。
- 3)授業の評価：生活習慣と心の健康に関するアンケート（授業前、授業直後、授業1ヶ月後）結果の比較、授業後の生徒の振り返り感想の分析を行った。
- 4)保健日より
精神的不調に気づくための具体的な方法の紹介を行った。
- 5)個別指導
アンケート結果や生徒の感想を分析し支援や配慮が必要と思われる生徒の個別指導を行った。授業の振り返りや感想の聞き取りを行った。その内容は、プロセスレコードで記録・分析を行った。

【結果および考察】

アンケートの結果、授業前に比べ授業実践後(授業直後と授業1カ月後)は、精神疾患への理解、援助希求、援助行動の意思のいずれも高まりが見られた。各授業の感想では、精神疾患が身近な病気であることや、早期症状に気付くこと、周囲の人の存在や環境づくりの大切さを記載している生徒が多く、自身が悩んだ経験を振り返る生徒も見られた。また、精神疾患を経験した友人がいる生徒や、過去に精神疾患と診断され治療を受けた生徒がいることが分かった。精神疾患に関わる経験について記述していた生徒については、授業後のフォローアップや個別の保健指導を行い、担任教諭への情報共有を含め継続的な関わりへ繋げた。

本実践では、「精神疾患の予防と回復」の単元に養護教諭が関わることにより、事前の生活習慣の実態把握を活かした指導内容や、気になる友人への声かけの演習など養護教諭の専門性を活かした授業実践を行うことができ、生徒の精神疾患に対する理解や、疾病の予防、早期発見・早期治療に対する意識を高めることが示唆された。また、養護教諭が授業を行うことにより感想等で把握した実態を個別指導や継続支援に繋がられた。この学習効果を長期的に維持し高めるためにも指導内容の精選や、学習活動の工夫を行うだけでなく、授業前後における養護教諭の専門性を活かした個別指導、健康相談活動など教育活動全体における継続的な精神保健教育を行うことが重要であると考えられる。

【まとめ】

本実践により科目保健「精神疾患の予防と回復」の単元を含めた学校における精神保健教育に養護教諭が関わる効果を生活習慣面や心の健康面より検討することができた。また、精神保健に関わる指導を行う場合は、配慮が必要と思われる生徒が少なからず存在するため、集団指導と個別指導との連携が欠かせないということが示唆された。今後とも、授業における専門性や生徒との日常的な関わりを深め、養護教諭が行う精神保健教育がより推進されるように実践を重ねていきたい。